

EIT-JSCE Joint International Symposium 2009
– Geotechnical Infrastructure Asset Management –
参加報告

京都大学大学院経営管理研究部
大津 宏康

1. はじめに

EIT¹-JSCE² Joint International Symposium 2009- Geotechnical Infrastructure Asset Management が、平成 21 年 9 月 7 日および 8 日の 2 日間、タイ・バンコクにおいて開催されました。2 日間のシンポジウムの内、9 月 7 日は一般発表セッション、9 月 8 日は学生・若手発表セッションが設けられました。

このシンポジウムは、2002 年から京都大学を始めとする関西地区の岩盤工学関連分野の大学教員と、アジア工科大学 AIT (Asian Institute of Technology) を始めとするタイの岩盤工学関連分野の大学教員との合同イベントとして毎年開催されてきたもので、今年で 8 回目となります。これまでの 8 回の合同イベントでは、表-1 に示すように岩盤工学・地盤工学・資源工学、および関連分野の多岐にわたる話題をメインテーマとして開催してきました。

表-1 開催テーマの歴史

No.	Year	Title
1	2002	EIT- JAPAN-AIT Joint Workshop on Rock Engineering
2	2003	EIT- JAPAN-AIT Joint Workshop on Modern Computer Methods, and Modern Technology on Computer in Rock Engineering
3	2004	EIT- JAPAN-AIT Joint Workshop on Geo-engineering in Groundwater, Land Subsidence, Exploration Geophysics and Underground Excavations
4	2005	EIT- JAPAN-AIT Joint Workshop on Geo-Risk Engineering & Management
5	2006	EIT-Japan-AIT Joint Seminar on Geo-Risk Engineering - Monitoring and Geo-Exploration -
6	2007	EIT-JSCE Joint Seminar on Rock Engineering 2007
7	2008	EIT-JSCE Joint International Symposium 2008 - Monitoring & Modeling -
8	2009	EIT-JSCE Joint International Symposium 2009 - Geotechnical Infrastructure Asset Management -

¹ EIT: Engineering Institute of Thailand (タイ王立工学会)

² JSCE: Japan Society of Civil Engineers (土木学会)

この8回の合同イベントを通して、タイと日本の当該分野に関する教育・研究の交流が深まってきたことは言うまでもありませんが、加えて日本からの参加者は様々な得がたい経験をしてきました。第5回（2006年）は、シンポジウム直前に現在のタイの政情不安の原因となっているタクシン首相（当時）を追放するクーデターが発生し、戒厳令（Martial law）が発令されている中で開催されました。なお、この時は、戒厳令は発令されていましたが、シンポジウム開催中に新バンコク国際空港（スワナプーム空港）が開業となりました。このため、参加者の多くは、入国は当時のバンコク国際空港（ドンムアン空港）で、出国は新バンコク国際空港（スワナプーム空港）という貴重な経験をしました。第7回（2008年）は、シンポジウム直前に当時の反政府勢力 PAD（People's Alliance for Democracy）と政府支持派との衝突に起因して発令された非常事態宣言（Decree of a state of emergency）の下で開催されました。

これまでのイベントにおいて、第6回（2007年）からは、一般発表に加えて、日本およびタイの学生および若手研究者・技術者に英語での発表の機会を与えるため、学生・若手発表セッションを開催するようになりました。

2. シンポジウムの内容

表-1 に示すように、今回のシンポジウムのメインテーマは、「Geotechnical Infrastructure Asset Management」ですが、このトピックスは、京都大学が実施中の GCOE³プロジェクト（アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点；<http://hse.gcoe.kyoto-u.ac.jp/>参照）に関連するものです。その内容について、以下に要約して示します。

(1) 一般発表セッション（第1日；9月7日）

第1日目のシンポジウムでは、まず開会式においてタイ側および日本側を代表して、それぞれ Dr. Noppadol Phienwej（AIT）および筆者により開会の挨拶がなされた後（写真-1 参照）、Prof. Kittetep Fuenkajorn（Suranaree University, スラナリー大学）による「An Overview of Rock Mechanics Researches in Thailand」と題する Keynote Speech がなされ、これまでおよび現状でのタイにおける岩盤工学に関連するプロジェクト、およびそれに関連す



写真-1 開会の挨拶（左 Dr. Noppadol, 右筆者）

³ 文部科学省 GCOE（Global Center of Excellence）プロジェクト

る研究動向が紹介されました。タイにおいては、岩盤工学は、これまでの合同イベントで Dr. Noppadol が何度も説明してきたように、比較的新しい研究分野と位置付けられるため、まだ日本に比較して遅れていると印象を持った方もおりました。しかし、過去に日本で盛んに実施された基礎研究と解釈される各種の実験がなされデータがなされつつあると共に、例えばスラナリー大学の Prof. Kittetep の研究チームでは 24 名の大学院生が所属しているように若手研究者が育成されつつある。日本での岩盤工学関連分野の活気が乏しいことが指摘されている現状に比べて、タイの活気ある現状をうらやましく感じました。

その後、一般セッションにおいて、タイ側から 4 編、日本側から 10 編の計 14 編の口頭発表がなされ、活発な質疑応答が交わされました。

(2) 学生・若手発表セッション (第 2 日 ; 9 月 8 日)

第 2 日目の学生・若手発表セッションにおいては、タイ側から 14 編、日本側から 13 編の計 27 名の口頭発表がありました。なお、タイ側の発表者の所属は、アジア工科大学 AIT, カセサート大学 (Kasetsart University), スラナリー大学 (Suranaree University) の 3 大学でした。

学生・若手発表セッションの、2 年前はタイの発表者に比べて、日本側の発表者の発表および質疑応答での英語の能力が劣っているのではないかという印象を持ちました。しかし、今年で 3 回目を迎えて、経験不足のため質疑応答では十分対応できていないようですが、これはたとえ日本語での発表であっても同じことだとも考えられます。その一方、日本側の発表者の発表自体は毎年向上しつつあると感じています。

毎年、この学生・若手発表セッションでは、日本人参加教員を審査員として、優秀発表者を選定しています。今年は、閉会式において 6 名の発表者が優秀発表者として表彰されました (写真-2 参照)。



写真-2 優秀発表者表彰 (左北岡君 (関西大学))

3. おわりに

1. に述べましたように、今回のシンポジウムは、2002 年の開始から 8 回目を迎えることになりました。既に、このタイと日本との合同イベントは定例事業として定着していると共に、学生・若手発表セッションについては、今回は日本の学生数を上回ったように、アジア工科大学 AIT を始めとして、タイの岩盤工学・地盤工学に関係する教育・研究機関からの協力が得られるようになって来ました。

毎回本合同イベントの紹介で示しているように、「継続は力なり」を基本コンセプトとして、この活動を継続していく所存です。

関係各位の方々に御礼を述べると共に、今後の協力をお願いする次第です。